

<その他、取組に特徴のある事例>

## ○稲刈り体験や収穫祭が結ぶ都市と農山村との交流

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	栃木県大田原市 <small>おおたわらし</small> 寺宿上 <small>てらじゅくかみ</small>			
協定面積 11.7ha	田(100%) 米、牧草	畑	草地	採草放牧地
交付金額 156万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	水路、農道の維持管理・補修等		17%
		草刈機の導入		16%
		体験事業・収穫祭		10%
		役員報酬		3%
		旅費、事務費		2%
積立て(野生有害動物の捕獲機)		2%		
協定参加者	農業者 5人			開始:平成12年度

### 2. 取組に至る経緯

当集落は、大田原市の北東部に位置し、栃木県東部にそびえる八溝山系から流れ出る前松葉川沿いに広がる集落である。農産物は、水稻(種子生産含む)を中心に、梅、柿等を作付けしている。

集落全体の努力により、集落内に耕作放棄地はないものの、高齢化、米価下落等による農業経営の逼迫により、兼業農家が集落の大多数を占め、持続的な農業経営が困難な状況になりつつある。また、近年ではハクビシンの被害が増加している。

そのような中、農業生産の維持を通じて農地を保全するとともに、都市と農山村との交流による地域の活性化を図ることを目的として、本制度に取り組むこととした。

### 3. 取組の内容

集落協定に基づき、共同による農道や水路の管理、山際の下草刈り等を行っている。また、U字溝の布設やパイプラインの設置など、個人では対応が難しいことを中心に実施している。

さらに、平成21年度からは、これまでの取組に加え、稲刈り体験や収穫祭を実施しており、収穫祭には地元自治会や育成会及びその親類など、毎年約100人が参加している。特に、県内の都市に住む親類の子供たちが多数参加し、好評を得ている。こうした取組を通じて、幅広い年代による都市と農村との交流が図られ、集落の活性化に役立っている。



収穫祭募集チラシ



稲刈り体験



U字溝布設

### [集落の将来像]

地域の良さを子どもたちとの交流を通じて伝え、郷を守っていく。



### [将来像を実現するための活動目標]

・地域の核となる農業者を育て、耕作放棄地を増やさないようなサポート体制を整備する。

### [活動内容]

#### 農業生産活動等

農地の耕作・管理  
(田 11.7ha)

個別対応

水路・農道の管理  
・水路 1.4 km、清掃、草刈り

共同取組活動、個別対応

農地法面の点検  
(年 1 回及び随時)

共同取組活動、個別対応

梅の選果  
(農地 1ha)

共同取組活動

#### 多面的機能増進活動

稲刈り体験や収穫祭

共同取組活動

周辺林地の下草刈り  
(1ha、共同年 1 回、  
各自随時)

共同取組活動、個別対応

#### 農業生産活動の体制整備

共同利用施設（乾燥調製施設）の利用率のアップ  
協定参加者 5 人中 3 人が施設利用中→5 人全員へ

共同取組活動

農地法面・水路・農道等の補修、改良  
(2.3 km 随時)

共同取組活動

### 集落外との連携

○自治会や育成会、農地・水・環境保全対策関係の方々に協力を得ながら、稲刈り体験や収穫祭を開催している。地元以外に親戚等の参加を呼び掛け、参加者が増えるようにしている。

## 4. 今後の課題等

U 字溝やパイプラインの布設等により水路整備が進んだ反面、土水路が減少し、ホタル、ドジョウ、カジカなど、田んぼ周りの生物が減少してきている。今後は、そのような生物と共生できる環境を維持していくことが課題である。

また、鳥獣害（ハクビシン等）が増加しつつあることから、鳥獣害対策も今後の課題になってきている。

### [第 2 期対策の主な効果]

- 都市住民との交流による地域の活性化
  - ・ 稲刈り体験、収穫祭の参加者（H21：100名）